

3 地域ケア会議の開催状況

<地域ケア会議1>

地域ケア会議で認知症徘徊見守りネットワークの構築

(岩倉地域包括支援センター)

■実施学区名

・左京区岩倉北，岩倉明德，岩倉南学区の
3学区合同

■会議の構成

地域ケア会議はセンターが主催，実施しています。

会議の構成員：学区社会福祉協議会，民生委員・児童委員，老人福祉員，医師・病院，介護施設，訪問介護，地域のケアマネジャー，福祉用具業者，区社会福祉協議会など
(平成 24 年 2 月 9 日地域ケア会議出席者)

■会議の主な内容・議題

平成 23 年度については，徘徊模擬訓練を中心に計 3 回の地域ケア会議を行いました。4 回目は平成 24 年 2 月 9 日に開催し，介護保険制度改正，あんしん病院登録，地域でのインフォーマルサービスについての意見交換を行いました。参加者は約 80 名でした。

平成 23 年 1 月 22 日

「岩倉地域で認知症を見守る」
徘徊模擬訓練の実施日設定
企画書の作成

平成 23 年 5 月 12 日

「岩倉学区徘徊模擬訓練実施に向けて」
徘徊者の設定説明&ルートの報告及び
声かけの仕方について，徘徊模擬訓練
の事前打ち合わせを実施

平成 23 年 5 月 20 日

「徘徊模擬訓練当日」
70 名を超える参加者により徘徊模擬
訓練を実施

平成 23 年 7 月 12 日

「徘徊模擬訓練の検証」(左京医師会:
北山病院:澤田親男先生 協力)
徘徊模擬訓練の DVD による検証，
認知症サポーター講座を実施

平成 24 年 2 月 9 日

「地域包括ケアについて」
介護保険制度改正，あんしん病院登録，
地域でのインフォーマルサービスにつ
いての意見交換

■地域プラン，ビジョン等の作成

徘徊模擬訓練を地域ケア会議のメンバーで実施することで，地域で認知症の方を見守るネットワークについて構築に取り組んでいます。

■現在の課題

地域ケア会議として取り上げたい内容が盛りだくさんであり，優先順位をつけて実施していきたいと考えています。地域ケア会議は単発で終わるのではなく，次につながる内容にしていけるかが大切であると感じています。

また，メンバーとして消防や警察(交番)に参加要請を行っているが，なかなか参加して頂けないという課題がありますが，今後も粘り強く，協力を求め，連携を図りたいと考えています。

～徘徊見守りネットワーク構築のための徘徊模擬訓練の取組について～

■ 徘徊模擬訓練の実施に向けた取組

平成22年3月開催の地域ケア会議において、亀岡市における徘徊模擬訓練を紹介したことをきっかけとして、岩倉地域における徘徊模擬訓練への取組を開始しました。

平成23年1月22日開催の地域ケア会議では、グループワークで「徘徊模擬訓練の企画書」を作成し、5月20日を実施日と設定しました。（参加者57名、地域23名、医療・介護34名）

平成23年5月12日の地域ケア会議では、岩倉学区徘徊模擬訓練実施の事前打ち合わせを実施、徘徊者の設定説明と徘徊ルートの報告、声かけの仕方などについての説明を行いました。

【徘徊模擬訓練とは】

徘徊する高齢者が地域で発生したと想定し、搜索のための情報伝達や搜索を行なう訓練

■ 目的・ねらい

【徘徊 SOS ネットワークの構築】

センターが窓口になり、事前に同意を得て、登録してもらった高齢者の方が、行方不明となった際、地域の見守りに協力して頂ける団体、医療機関、介護保険事業所などに情報を発信し、可能な限りでの探索（目配り）を行い、早期に発見できるネットワークを構築することを目的としています。

■ 実施内容

平成23年5月20日(金)、左京区岩倉3学区において第1回徘徊模擬訓練が実施されました。京都府下では、京都府モデル事業として亀岡市、舞鶴市・綾部市・福知山市3市合同、向日市などですでに訓練が実施されていますが、京都市内では、岩倉3学区が初の取組となり、70名を超える参加者がありました。

訓練では、センターの職員が、手作りの徘徊Tシャツを身にまとい、グループホーム入居者と想定し、約1時間半かけて岩倉3学区を徘徊しました。

地域の民生委員・児童委員、老人福祉員・区社会福祉協議会、高齢者にやさしい店、京都市一人暮らしお年寄り見守りサポーター、センター圏域内の医療機関・介護保険事業所などが徘徊役の職員に声かけを行い、発見・通報を行いました。

～地域ケア会議の風景(H23. 1. 22)



～徘徊模擬訓練の様子(H23. 5. 20)～



徘徊模擬訓練の意義

- 認知症について 1 人でも多くの地域の方に知ってもらうこと
- 1 人でも多くの地域の方や事業所の方に協力してもらうこと
- 認知症サポーター養成講座の受講を活かし、認知症の方への声かけの訓練を行い、日頃から認知症の方を地域住民で見守り、支える意識を高めること
- 小さなネットワークですが粘り強く、継続し地域に広げていくこと
- 今回構築できたネットワーク（連絡網）は、固定電話26件、FAX24件、メール11件、携帯電話10件の計71件でした（平成23年7月19日現在では80件）。

今後の課題

○現在の徘徊登録者は5名
（平成24年4月1日現在）

- 電話登録の方の登録変更の依頼文
捜査依頼があった際、電話連絡を行う余裕がなく、メール・FAX のみの連絡となっているための登録変更です。
- 見つけて下さいの情報 ひな形
捜査依頼があった際、メール・FAX がすぐに発信できる体制が必要となります。そのために、文面（ひな形）を作成し、PC に貼り付けています。
- 協力してくれる事業所・機関の拡大
- 上記情報と、施設職員の登録の呼びかけ
※長期目標:事務局機能の共有
施設入居者が休日・夜間に行方不明になった時でも、施設職員は24時間施設に勤務しており、情報を発信できるため、施設職員が登録することは、ネットワークの強化につながると考えています。
- 左京区の広域でできないか？ 学区をまたぎ徘徊を想定
- やさしい店・認知症サポーター・見守りサポーターなどとリンク など

【岩倉 徘徊模擬訓練企画書】

「徘徊」模擬訓練 企画書					H23.1.22 作成 Aグループ	
開催年月日	平成 23 年 3 月 26 日 (土曜日)	時間	14:00～17:00			
対象学区	岩倉北・明德・岩倉南・三学区合同・その他（ ）					
参加者	グループホーム職員・地域の方・自治会役員・お店の人(A コープ・薬局ウノ・コンビニ等)					
活用できそうなネットワーク	左京区メールリングリスト・警察・小学校PTA・タクシー・運送会社・認知症サポートメール					
基本的な設定	グループホーム入居者が徘徊 →最後は、国際会館付近で発見され無事にグループホームに戻る					
	時刻	本人の行動	参加者の行動			
	14:00	徘徊開始	GH スタッフが気づき自分たちで探すその後、ネットワークを使い警察等に連絡。 家族に確認の上、参加者に年齢・服・特徴等を周知。 各地域で探しはじめる。			
訓練当日のスケジュール	14:10	そのまま南下	地域・店の方に声をかけてもてもらう。			
	徘徊しながら出張所・A コープ等にも立ち寄る。 洛北中学 南小学校					
必要物品	携帯電話 地図 ビデオ	参加者の服		終了後の動き	反省会	

「徘徊」模擬訓練 企画書				
開催年月日	平成 23 年 5 月 10 日 (火曜日)	時間	1000～1200	
対象学区	岩倉北・明德・岩倉南・三学区合同・その他（ ）			
参加者	民生委員・老人福祉員・学区社協役員・自治会役員・大原デイサービス・三幸会ケアプランセンター・岩倉包括・洛陽病院			
活用できそうなネットワーク	員ごとの連絡網			
基本的な設定	82歳女性 要介護2	息子夫婦と同居だが、夫婦は就労しており昼間独居。八瀬より岩倉中町に嫁入りし、八瀬の実家に帰ろうとしている。A コープまでなら一人でいける。デイを週3回利用しており、利用日でない日に東公園付近歩いているところをデイの送迎車が見つける。	時刻	本人の行動
	10:00	徘徊開始 岩倉中町 自宅出発	参加者の行動	
	10:15	岩倉駅周辺 東公園をグルグル歩く。	参加者の行動	デイ送迎車が岩倉駅前で歩いているのを発見。センターより居宅ケアマネに歩いていることを電話連絡する。 居宅ケアマネは岩倉駅付近を確認するが見つからず、家族(嫁)に連絡。岩倉包括にも連絡し協力要請する。 岩倉包括より、民生委員・老人福祉員等電話で本人の情報を連絡する。皆で探す。 駅付近包括 東公園岩倉南 長谷別れ明德 ケアマネ自宅付近
訓練当日のスケジュール	11:15	東公園前で座り込んでいる	参加者の行動	大の散歩中の主婦が見つけれ老人福祉員に連絡、現場に行き、本人と確認する。老人福祉員→岩倉包括→三幸会ケアマネに連絡。ケアマネより家族に見つかった旨を伝える。 嫁も公園へ。 かかりつけ医の洛陽病院に行き、主治医受診。 めでたし。 岩倉包括より各団体に発見し、元気であることを連絡。
	12:30		参加者の行動	

【岩倉 徘徊模擬訓練広報誌】

平成23年5月20日(金)は、お天気の晴の中、左京区岩倉学区において第1回徘徊模擬訓練が実施されました。府下においては、京都府モデル事業として亀岡市・舞鶴、綾部、福知山3市合同・向日市等においてすでに訓練が実施されていますが、京都市内においては、岩倉学区が初の取り組みとなり70名を超える参加者がありました。

【徘徊模擬訓練】とは、徘徊する高齢者の方が発生したと想定し、探索のための情報伝達や探索を行なう訓練です。

訓練では、当包括支援センターの職員が、手作りの徘徊ドジャツを身にまとい、グループホーム入居者と想定し、約1時間半かけて岩倉3学区を徘徊…。地域の民生委員・老人福祉員・社会福祉協議会の方・高齢者にやさしい店・京都市一人暮らし見守りサポーター・圏域内の医療機関・介護保険事業所等が徘徊役の職員に声をかけを行い発見・通報をして頂きました。

「ありがとう」カード

私が道に迷い困っている時に、声をかけて下さってありがとうございました。
おかげさまで、安心することができました。
藤田ひろき

このカードを奪取った方は
070-0000-XXXXX 又は 070-0000-XXXXX (おかげさまで)
京都市岩倉地域包括支援センター

関係機関協力

【地域密着】
グループホーム・エコー長谷・カサボ・セキ・岩倉長谷
【区外協力】
左京区社会福祉協議会(岩倉・長谷・山崎・山崎第二・山崎第三)
【デイサービス・老健・特設】
長谷・山崎・山崎第二・山崎第三・山崎第四・山崎第五・山崎第六・山崎第七・山崎第八・山崎第九・山崎第十・山崎第十一・山崎第十二・山崎第十三・山崎第十四・山崎第十五・山崎第十六・山崎第十七・山崎第十八・山崎第十九・山崎第二十・山崎第二十一・山崎第二十二・山崎第二十三・山崎第二十四・山崎第二十五・山崎第二十六・山崎第二十七・山崎第二十八・山崎第二十九・山崎第三十・山崎第三十一・山崎第三十二・山崎第三十三・山崎第三十四・山崎第三十五・山崎第三十六・山崎第三十七・山崎第三十八・山崎第三十九・山崎第四十・山崎第四十一・山崎第四十二・山崎第四十三・山崎第四十四・山崎第四十五・山崎第四十六・山崎第四十七・山崎第四十八・山崎第四十九・山崎第五十・山崎第五十一・山崎第五十二・山崎第五十三・山崎第五十四・山崎第五十五・山崎第五十六・山崎第五十七・山崎第五十八・山崎第五十九・山崎第六十・山崎第六十一・山崎第六十二・山崎第六十三・山崎第六十四・山崎第六十五・山崎第六十六・山崎第六十七・山崎第六十八・山崎第六十九・山崎第七十・山崎第七十一・山崎第七十二・山崎第七十三・山崎第七十四・山崎第七十五・山崎第七十六・山崎第七十七・山崎第七十八・山崎第七十九・山崎第八十・山崎第八十一・山崎第八十二・山崎第八十三・山崎第八十四・山崎第八十五・山崎第八十六・山崎第八十七・山崎第八十八・山崎第八十九・山崎第九十・山崎第九十一・山崎第九十二・山崎第九十三・山崎第九十四・山崎第九十五・山崎第九十六・山崎第九十七・山崎第九十八・山崎第九十九・山崎第一百

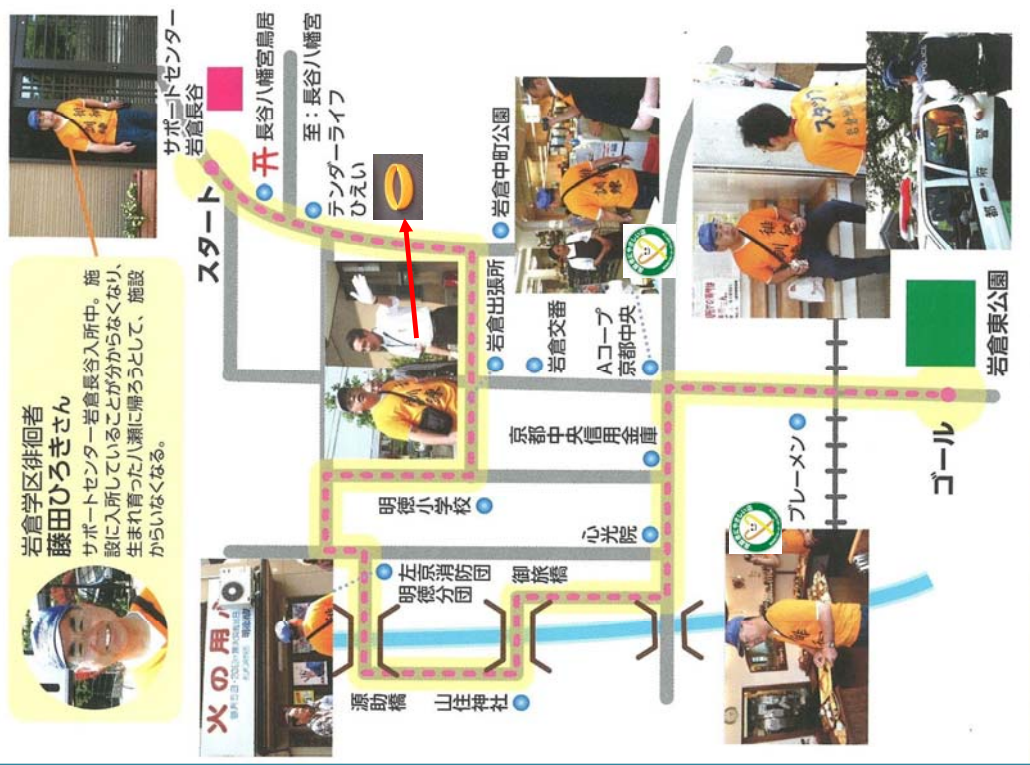


左京区には、平成21年度、左京区地域ケア連絡協議会と連携し、認知症サポーター講座を受講して頂いた【高齢者にやさしい店】があります。<事業の目的>左京区内の商店等が「高齢者にやさしい店」として店づくりに取り組みでいただくことにより、高齢者がいつまでも住み慣れた地域で生活し、認知症になっても安心して暮らせるまちづくりの推進を目指します。岩倉では3店舗登録されており、今回の訓練にご協力頂きました。<平成23年5月末現在>

第1回 岩倉学区「徘徊」模擬訓練

岩倉学区徘徊者 藤田ひろきさん

サポートセンター岩倉長谷入所中。施設に入所していることが分からなくなり、生まれ育った八潮に帰ろうとして、施設からいなくなる。



スタート: サポートセンター 岩倉長谷

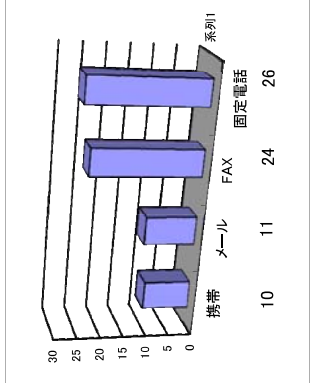
ゴール: 岩倉東公園

沿道施設: 岩倉出張所、岩倉交番、Aコープ、京都中央、京都中央信用金庫、明徳小学校、心光院、源助橋、山住神社、御旅橋、明徳分団、左京消防団、岩倉中町公園、至:長谷八幡宮、テンドーライフ、ひえい、開:長谷八幡宮鳥居、岩倉長谷

徘徊模擬訓練の意義
【認知症について一人でも多くの地域の方に知ってもらおう!】
【小さなネットワーク…粘り強く、継続し地域に広げていく!】

仮称)徘徊SOSネットワークの構築
京都市岩倉地域包括支援センターが窓口となり、事前に同意を得、登録をしてもらった方が、行方不明となった際、地域の見守りに協力をし、情報を発信し、可能な範囲での探索(目配り)を行い、早期に発見できるネットワークを構築する。

今回構築できたネットワーク



左京医師会担当理事 米田武史先生
ご協力ありがとうございました。



反省会での意見

- ・初めての訓練だったが、スムーズに声がかけられた。
- ・今回は訓練のための訓練…次回には探索することになり、重宝を置いて取り組むべきでは?
- ・実際の現場で今回のように声がかけられるか不安である。
- ・行方不明となったから時間が経過してしまうと、探索のネットワーク効果が薄れる。
- ・日常において地域の核となる機関に、徘徊者の情報を登録しておくことが大事だと感じた。
- ・【医療機関】受付と外来に、徘徊情報シートを回覧しました。FAXは不鮮明でした。
- ・【医療機関】日に2回ハトローに回っているため、その際に探索の協力をしたいと思います。

この訓練が1回で終わらないように継続させましょう!!

<地域ケア会議2>

地域ケア会議を活用した地域プランの作成

(花園地域包括支援センター)

■実施学区名

花園、御室、宇多野、高雄の各学区

■会議の構成

地域ケア会議は4学区ともすべてセンターが主催、実施しています。

構成員：自治連合会役員、民生委員・児童委員、老人福祉員、学区社会福祉協議会、消防分団、福祉事務所、保健センター、区社会福祉協議会など

その他、必要に応じて地域介護予防推進センター、グループホームなどの介護サービス事業所、ケアマネジャーなど地域の関係機関に参加を呼びかけています。基本的に学区単位の開催ですが、必要に応じて合同で開催する場合もあります。

会議の主な内容・議題

～「情報シート」を使用して地域の情報、特性、課題などを集約～

「情報シート」を使用し、地域の情報、特性、課題などを集約しています。それをもとに、地域の関係者と共に「地域プラン」を作成しながら、地域の課題や目標および取組内容や解決方法などについて、協議を積み重ねています。具体的には、地域での見守り活動における各種団体の取組や、防災・福祉マップの作成案、すこやか学級・運動教室などの情報を共有しました。

認知症や単身の高齢者など地域で特に見守りや連携が必要と思われる高齢者の個別事例検討やグループホームなど介護サービス事業

所との連携等についても、担当ケアマネジャーや地域の関係者を交え、適宜行っています。

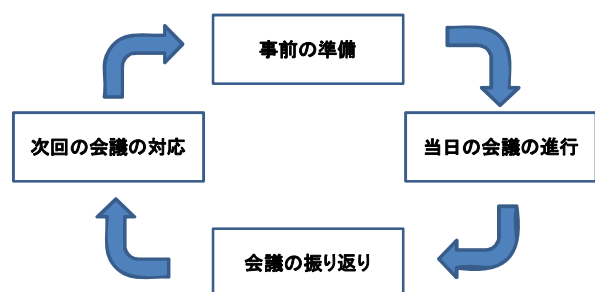
■会議の開催数（年間）

各学区とも年2回開催を基本としています。

高雄（6／15、12／8に開催済み）
宇多野（6／7、12／6に開催済み）
花園（8／1に開催、次回5月に予定）
御室（8／9に開催、次回5月に予定）

各学区、年2回の地域ケア会議に継続性を持たせるために、センター職員は会議終了後に会議内容のまとめ（振り返り）を行い、次回会議のための対応を考え、事前準備に取りかかり、当日の会議を進めます。このサイクルを実践することで、年2回の地域ケア会議で「情報シート」を作成し、地域プランの策定まで進めることができたと考えています。

【地域ケア会議に継続性を持たせるための取組】



また、円滑な地域ケア会議の進行のために、事前の準備（関係機関の代表に「情報シート」の事前記入の依頼、地域プランの作成趣旨の説明を事前に行うことなど）も重要になります。

■ 地域プラン、ビジョン等の作成

～目標、実施時期を決め地域プランを作成～

地域ケア会議を重ねる中で「情報シート」を用いて、地域の情報や課題を集約してきました。さらに、地域の関係者と共に地域プランを作成しながら、地域の課題や目標・取組内容や解決方法などについて、協議しています。

地域プランの内容としては、課題に対する目標を設定し、次に実施内容を決め、具体的な取組及び現状を把握して、今後の展開を考えています。実施内容ごとの担当を決めることで、どの関係機関が何を取り組んでいるのかを地域ケア会議参加者全体で確認・共有することができています。

プランの将来的な目安とするため大目標・中目標・実施時期も決めています。（一部作成中）

■ 現在の課題

地域の状況や関係者は学区により異なるので、地域ケア会議の進捗状況にもバラつきがあったり、見守り活動の困難さ、役職者の交替の難しさなど共通する課題もあります。今後も地域福祉活動が促進されるよう、例えば合同で地域ケア会議を開催するなど、地域住民が意識を高め、関係機関との連携を深められるようなきっかけ作り、働きかけを創意工夫していきたいと考えています。

【地域ケア会議での情報収集のための依頼文】

地域ケア会議で、記入用紙とともに参加メンバーに配布した情報収集（情報シート）のための依頼文です。

「学区の情報を集めるについて」

今回の地域ケア会議で「学区の情報を集める」を議題にあげさせてもらっています。

皆様が持っておられる情報、センターが持っている情報を寄せ合い、まとめていきます。地域のことをもっと深く知ることができ、それを皆で共有できる機会にしていきたいと考えています。

同封している別紙（※）にご記入をお願いいたします。記入できる範囲で、思ったことを自由にご記入して頂き、9/10 までに返信用封筒にてセンターへご返送下さい。それを集約し、地域ケア会議で皆様に配布させていただきます。そこからまた色々な話し合いができればと考えております。

日々ご多忙とは存じますがご協力よろしくお願いいたします。

※別紙として「情報シート」の白紙を配布

【「情報シート」（高雄学区1）】

学区面積 (H20、10月)	右京区 74.27km ² (京北除く) 学区 19.66km ² 右京区(京北除く)で第一の広さ(26%を占めている)		
学区人口 (H20、10月)	学区 総数 2,435人 (男1,182人 女1,253人) (H19、10月より59人減少) 右京区 197,103人 右京区で3番目に少ない 人口密度124km ²		
世帯数 (H20、10月)	919世帯 H19と比べ世帯数は20世帯増加 1世帯あたり2.65人 (右京区で3番目に多い)		
町内会数	12町内		
高齢化率 (H20、10月)	65歳以上22.1% 75歳以上11.1% 全市 65歳以上19.9% 75歳以上9.0% 右京区 65歳以上19.6% 75歳以上8.4% ・同居が少なくなつて、皆結婚したら子供たちは出ていっている		
民生委員	人数	7名 (民生委員5名・児童委員2名)	
	取り組み	・高齢者支援(独居老人の実態調査、見守り強化) ・子育て支援 ・地域福祉活動及び研修	
老人福祉員	人数	2名	
	取り組み	・高齢者支援(独居の家庭訪問、民生委員さんと同行動やお手伝い)	
見守りサポーター	人数		
学区の住環境	特徴	・162号線に沿って細長く、山に囲まれており高低差もある。 ・旧家が多く、屋内も段差が多い。石段や坂が多く、玄関までが長い。 ・豊かな自然に恵まれている。 ・学区として必要な公共施設がほとんど整っていない。 ・公民館や児童館、広い公園などはない。	
	思うこと	・国道162号線、カーブが多く、道幅は狭いので交通事故が心配。自転車での移動はこわい。 ・車の通りが多くうるさい。また、道を横断することが難しい。 ・「ちょっと歩いて買物に…」はなかなか出来ない。 ・年齢を重ねるとなかなか大変な面が多いかもしれない。車椅子等では一人での移動はできないバリアフリー化は難しい。 ・高齢になると住みにくいと思う。 ・高齢者のみの世帯や独居の方が増えてきている。 ・犬の散歩のマナーの向上が必要と思う。 ・道が1本しかないので、災害があった場合に抜け道がない、急斜面のため土砂災害の心配がある。	
学区の地域活動	特徴	・都市部と離れているので、まとまりはあると思う。 ・社協や民協、老人クラブが地域住民と深く結びつき活動を持続させていて地域ネットが作られている。 ・活動の一端を高雄病院も担ってもらっている。(福祉祭り、すこやか教室、健康相談等) ・配食サービスを毎月している学区は右京区内では当学区のみ。利用者数も増えている。	
	思うこと	・地域安心ネットが細やかに広くなるために行政的財政的支援がほしい。 ・昔の暮らしと現在の活動をミックスしながらの活動ができればよいと思っている。 ・皆がそれぞれにご近所との関わりをもっていけたらよいと思う。 ・情報交換ができる場がなく、プライバシーの侵害や犯罪の面からも情報の共有が難しい。 ・各団体がそれぞれの活動をしているが、後継者作りが難しい。 ・古くからの住民と新しく来た住民が協力共同できるような場作り等が必要。 ・障害者支援については現在の取り組みが高齢者中心となっているので様々な活動に参加できる機会があればと思っている。	
学区の寺院	特徴	・古くからの有名な寺院が多い、国宝もたくさんある。 ・高雄三山(神護寺、高山寺、西明寺)は有名。	
	思うこと	・山の中にあり階段が多く、拝観しにくい。住民がもっとお寺を拝観できるようになればよいと思うし、地域住民がもっと関心をもって知るべきである。	
交通機関	特徴	・交通機関はバスのみ(JRバス、市バス) バスの本数が少ない。時間帯によっては1時間に1本のときがある。(21時台が最終になる。) ・バスの郊外料金が高い(最大500円) 敬老乗車証がJRバスでは使えない。 ・福王子での乗り換えの際に歩くのが大変。	
	思うこと	・バスでは不便な点が多いので自家用車の利用が多い。 ・運転が出来る人は車で移動出来るが、お年寄りや運転が出来ない人にとっては不便である。 ・違う路線のバスも走ってくれたら非常に助かると思う。	

【「情報シート」（高雄学区2）】

学区の教育機関	特徴	・小、中学校1校のみで築年数が高い 9年間変化がない。(設備が悪く、狭い運動場と狭い体育館 プールがない、特別教室もない) ・保育園や児童館はないが、 放課後まなび教室が火水金にあり、先生のOBや地域の方がボランティアで活動されている。 ・専科の先生は常駐していない。(持ち回っている)
	思うこと	・子育て支援は緊急の課題だと思う。 ・学校に行くまでが坂道なので歩くのが大変 通学路も危険なところがある。通学路の見守り隊として学校に関わりのある人でメンバーが編成されている。 ・小規模で、小中一貫校のようなところの良い面をもっと生かせるような工夫が必要ではないか。 ・生徒の数は少ないが、先生の目が届くという利点もあり、学力にもばらつきがない。物騒な事件も起きていない。
文化・娯楽施設	特徴	・山越温水プール(会場費が高く時間も夜間は21時まで) ・学区の集会場がない。12町内会全てに自治会館がない。 ・老人クラブハウスがあり、老人会が管理。
	思うこと	・交通機関が、山越温水プールの施設の前まではなく、最寄りのバス停からは坂がきつく距離もある。 ・老人クラブハウスでは老人会がカラオケやご詠歌などを行っている。自治会の会議などにも借りているが、 他にも寺院や学校等を仮に利用している状況。
最寄りの警察	特徴	・派出所(駐在所)
	思うこと	・坂道なので歩くのが大変。 ・こまめにパトロール(見回り)をしていてくれると思う。 ・観光地でもあり、交通量も多いので一人では大変である。 目配りが行き届かないのではないかな。
医療	学区内にある医療機関	・高雄病院(整形外科、小児科、歯科、眼科、耳鼻科はない)
	普段よく通う、又は往診を受けている医療機関	・市立病院 ・民医連中央病院 ・林小児科 ・仁和診療所(歯科) ・足立医院 ・西陣病院 ・相馬病院 ・龍安寺クリニック ・宇多野病院(物忘れ外来) ・総合病院に行くと、「これくらいなら個人の医院へ行って下さい」と言われるので行きにくい、個人医院が学区内にはない。
	往診可能の医院	・嵯峨野病院 ・竹腰医院 ・足立医院 ・大原記念病院 ・相馬病院 ・朱雀診療所 ・川村クリニック ・たなか往診クリニック ・イトウ診療所
介護	形態	・自宅や病院にお願いをしていた。
	サービス機関	通所介護 ・高雄病院 ・デイサービス喜林 ・パナソニック エイジフリーうずまさデイセンター 居宅 ・嵯峨野病院 ・京都生協右京ホームヘルプサービス ・ケアプランサポートたくみ ・訪問看護ステーション嵯峨 ・まどかケア・プランニング 訪問介護 ・嵯峨野病院 ・京都生協右京ホームヘルプサービス 訪問看護 ・訪問看護ステーション嵯峨 それぞれの事業所のサービス提供エリアについては要相談。
	ボランティア・NPO活動	・隣近所の助け合いが強い。
	思うこと	・両親の介護の時よりは少しづつ良くなっていると思う。 ・社協を通じて行う程度。 ・福祉の世話になることへの抵抗がある。
買物	学区内のスーパー、商店など	・コンビニ(ファミリーマート) ・酒店(デグチ) ・魚屋(中勝さん) ・個人商店が数件あるのみ
	普段よく行くスーパー、商店など	・ジャスコ ・マツモト ・生協 ・白梅町のイズミヤ ・ライフ ・バスの路線変更により、ライフや京都ファミリーに変わりつつある。 ・どこへ行くのにも車かバスを利用しなければならない。 ・家族が多いと遠くの大型スーパーに行かなければ品物が揃わない。 ・お年寄りには近くにスーパーがないので、バスを利用している。 ・バスに乗って行けない人は生協の宅配を利用している。
学区の銭湯・入浴施設	特徴	・ない
	思うこと	・年寄りになった時、風呂掃除が大変になるので、あればよいと思う。 ・各家にあるので、お風呂屋さんの経験は少ないのではないかな。 ・山越え温水プールに入った人が利用する程度ではないかな。

【「情報シート」（花園学区1）】

学区面積 (H20 10.1)	0.48km ² 右京区で3番目に小さい	
学区人口 (H20 10.1)	5,976人 右京区全体の2.9%	
世帯数 (H20 10.1)	2,710世帯 1世帯あたり人員2.21人	
町内会数	33町内 団地8町の内4町の町内会長が決まっていない。団地内の自治会もあるが、上手く機能していない。	
高齢化率	(65歳以上)22.1% 75歳以上 9.2%	
民生委員	人数	12名(内主任児童委員2名を含む)
	取り組み	老人福祉、生活保護制度と低所得者対策(申請希望があれば役所につなぐ)、子育て支援など、少子高齢化と地域福祉事業
老人福祉員	人数	7名
	取り組み	老人に対する安否確認と生活相談など 今年から2名増員となり、担当地域が広がったところを分けた。
学区の住環境	特徴	・嵯峨嵐山と都心を結ぶ観光客の行き交う歴史と現代の暮らしが息づく町である。 ・歴史ある寺院や名所があり静かな住みやすい良い環境 ・JR鉛線の南側は住宅密集地、老朽化したアパートもあり、マンション・団地が多い。 ・丸太町通りで南北に分断されていて自分の側しか余り知られていないと思う。 ・市の中心や観光地に行きやすく、金融機関やスーパーなども近くにありバランスの良い所だと思う。
	思うこと	・歴史に誇りをもちながら力強く生き続けている。 ・高齢者の一人暮らしの把握、見守りが問題となっている。→隣近所に声をかけ合うことがまず第一、信頼関係を築いていくことが必要。
学区の地域活動	特徴	・各種団体個人で動いているようで区民全員は知らないことが多いと思う。 ・すこやか学級の取り組みが始められた。 ・自治連合会を中心として体育振興会、老人会、女性会、社会福祉協議会、消防団などが独自性をもって活動している。 ・見守り隊はスタートしてから5年経っている。有志で50人程のメンバーがいる。交通安全委員会にも頼んでいるが、自主防災会会長がまとめている。
	思うこと	・諸団体は各町内会から選出された委員の活躍でそれぞれに活動が運営されているがそれがいやで町内会に入らない世帯もある。それでもやはり助け合って動ける者が動く、動くからには楽しい活動でありたいと思う。 ・お互いが連携を保って活発に活動し、地域住民とのふれ合いを保っている。
交通機関	特徴	・JR嵯峨野線 花園駅 円町駅 市バス2系統 京都バス ・JR花園駅が近いが、バス利用も丸太町通りまで出る必要がある。 ・学区の中心に嵯峨野線、路線バスがあり交通の便が良い。 ・地下鉄東西線ができ、山科方面にも移動がしやすい。 ・学区内は坂が少ない分、徒歩による部分が多い。
学区の寺院	特徴	・禅寺妙心寺を筆頭に法金剛院の蓮など観光の名所が多い。 ・成願寺 ・法金剛院は平安期の造営とされ、町名の寺の内という様に敷地は相当広がった。金目墓地は昔の法金剛院庭園の一部築山であったと言われている。 ・妙心寺本堂の行灯書き・拭き掃除・座禅など小学生は体験している。今宮神社では神輿もあり、古いお寺や神社の昔からの祭り事、習わしごとなどに直接携わることができる、身近にあることが素晴らしく大切にしたいいけない。
	思うこと	

【「情報シート」（花園学区2）】

学区の教育機関	特徴	・小学校 ・大学 ・私立中学、高校 ・放課後学びの教室は月水金開設しているが、火・木開設して曜日はどうするのか。学区内に児童館がないため、学童も北区の児童館まで行っている。隣の学区にあるだろうと行政から言われるが地域でのなじみも薄いので利用しづらいなどの問題がある。 ・私立中等高等学校は臨済宗大本山妙心寺の学校で宗教的教育が行われている。 ・小学校の行事予定は回覧で見ることが出来る。中学校でも組織はあるが学期に一度集まる程度の活動しかしていない。
	思うこと	
文化・娯楽施設	特徴	・花園会館
	思うこと	・「ふれあい・文化会館」が出来、交流の場が増えて良かったが、学区内のお年寄りがゆっくりとくつろげる場所が無い様に思う。
最寄の警察	特徴	・右京警察署 ・花園安井交番 ・以前みたい台帳を持って回ってきることが少なくなってきたが、警察官OBが一人派遣されており登下校時など、交番前に立っていてよく声をかけてくれている。 ・防犯推進委員会、自主防災のパトロールを一緒に行っている。
	思うこと	・回覧が来るが、記表示されていても余り読まれていないよう。 ・S40年代新丸太町通り開通による道路拡張のため、花園交番（花園駅前）が隣の学区に移転した。当学区民としては不安材料の一つである。
医療	学区内にある医療機関	・太田診療所 ・花房医院 ・宮下医院 ・泉谷病院
	普段よく通う又は往診を受けている医療機関	・花房医院 ・民医連中央病院 ・工場保健会 ・太田診療所 ・足立医院
	往診可の医院	・竹腰医院 ・足立医院 ・大原記念病院 ・そうま病院 ・朱雀診療所 ・たなか往診クリニック ・川村クリニック ・イトウ診療所
介護	形態	・民生委員を通じて行われていると思う。 ・特養
	サービス機関	・はなぞの ・学区内にサービス機関は無いが、隣接する学区や中京区の事業所からもサービスを利用することが可能。
	ボランティア	
	思うこと	・隣近所がもっと親密に助けあえばと思う反面、あまりにも身近な人だからできない現状、立ち入れない現状がある。 ・町内で孤独死がありショックである。
買物	学区内のスーパー、商店など	・規制緩和と不景気で商店街が消滅、中心となっていたスーパーも閉店し、高齢者が不便している。 ・公設市場の頃より地域のお年寄りに利用されていたスーパーの倒産は衝撃 ・木辻商店街 ・サンデイ ・進々堂
	普段よく行くスーパー、商店など	・生鮮館 ・イズミヤ ・スーパーまつもと ・ライフ太秦店 ・生協共同購入 ・進々堂 ・サンデイ
学区の銭湯・入浴施設	特徴	・花園湯
	思うこと	

【地域ケアプラン 高雄学区】

高雄学区()		大目標:		中目標: 各団体が協力し、独自の名簿を作成する。		
課題	(課題に対する)目標	実施内容	具体策(現状)	具体策(今後)	担当	実施時期
高齢世帯や独居が増えている。 社会資源が少ない地域であり、皆で助け合うことが大切だと思う。 町内会に入っていない世帯の把握が難しい。 各機関の情報や活動が各々なので、統一できたら更に見守り体制が強化できるのではないかな。	高齢世帯、独居の方を把握し、災害時や緊急時に対応できるようにする。 孤立しないように地域で支え合い、常に誰かとの関わりがあるような関係を作る。	・高雄コミュニケーションブックの作成 (高雄学区全世帯に掲載の確認を行い、平成18年10月ごろに作成した。) ・新たな福祉マップの作成	・自治会の動きがわからない所もあるが、例会が月に1回あるので、把握(人の出入りなど)に努めるよう話をしている。		・自治連合会	平成23年 9月～ 平成24年 3月末
			・1件ずつ訪問し、世帯や状況の確認を行うが、大変なので他団体と一緒に活動することで把握していく。 ・見守りが必要な世帯については、定期的に訪問し、状態の確認を行う。(基本は複数名で訪問) ・「呼び笛」の配布を通して、災害時や緊急時に支援が必要な人の名簿を作成する。		・民生児童委員協議会 ・老人福祉員 ・自治連合会 ・花園地域包括支援センター	
		・消防分団の把握の取り組み	・65歳以上の方各町内昔の役所からの資料をもとに毎年更新している。消防署と連携し分団員が各町内にいる。若い分団員だと把握が難しい。手に持っている情報と現状は違う。		・消防分団(消防署)	
		・月例会での情報交換	・月に1回の例会にてご近所や知り合いの方の情報交換を行い、把握に努めている。		・社会福祉協議会 ・ひまわり会 ・社会福祉協議会	
		・すこやかサロン ・配食サービス	・地域での役員を通して参加者の呼びかけを行う。 ・手作りのお弁当を提供している。 ・月に1回実施して、状態確認を行う。 ・お弁当箱の回収も行い、2回は訪問をしている。 ・地域の役員が配達を行い、顔見知りの関係を築けるようにする。 ・支援が必要な方の把握も行う。		・社会福祉協議会 ・地域の役員(ご近所)	
		・老人クラブの活動	・各活動を通じて楽しみや集まりの場となっている。 ・カラオケや旅行、地域への奉仕活動等	・老人クラブなど他団体の把握状況も聞いていく。	・老人クラブ	
		・訪問活動	・高齢世帯や独居世帯への訪問を定期的に行っている。(民生委員・老人福祉員一緒に訪問している) ・気になる方がおられたら、地域包括支援センター等へ連絡をして介護保険制度等へ繋げる等、相談に応じている。	・70歳以上の方、65歳以上の独居の方、障がいなど身体に支障がある方へ「呼び笛」の配布を行い、健康状態や生活状況を把握する。	・民生児童委員協議会 ・老人福祉員 ・花園地域包括支援センター	

<地域ケア会議 3>

学区ごとにテーマを決め地域ケア会議を開催（西京・北部地域包括支援センター）

■実施学区名

松尾学区，松陽学区，嵐山東学区

■会議の構成

地域ケア会議は，学区単位で，センターが主催，実施しています。

構成員：民生委員・児童委員，学区社会福祉協議会，老人福祉員，自治連合会・ボランティア団体，西京医師会，福祉事務所，区社会福祉協議会・地域介護予防推進センター・介護保険事業所など
学区によっては，消防分団・交通安全推進委員会・老人クラブ等も参加しています。

■会議の主な内容・議題

～年度当初に学区の特性・課題に応じたテーマを決める～

年度当初に各学区の代表者が集まり，今年度のテーマと会議回数・構成員を決めて始めます。

●松尾学区●

高齢者が困ったときの連絡先について
「いざという時のために」

1回目：「緊急時の連絡先一覧」について
他地域の取組について学ぶ

2回目：緊急対応カード（仮称）の松尾版
作成について

※緊急対応カード（仮称）は，高齢者のかかりつけ医，服用している薬，緊急連絡先などを記入したカード

●松陽学区●

松陽3愛運動「支えあい」「助けあい」「喜びあい」の3つのあいは地域のつながり。高齢者を支援するには，高齢者が何に困っていてどんな助けを必要としているかを知ることが大切。

また，元気なうちから知り合い・声を掛け合う事が必要。どのようにして関わったら良いのかについて，意見交換を行う。

●嵐山東学区●

嵐山東学区に住む高齢者世帯の問題について，現状と将来を考える。

1回目：自分たちの地域を知る。

2回目：高齢者の安心につながる活動について考える。

■会議の開催数（年間）

各学区年間2回開催

年度末に成果発表の合同会議を行う，もしくは，まとめ冊子をつくりエリア内学区で共有する機会を作っています。

■地域プラン，ビジョン等の作成・検討

～地域の課題を集約し，地域プランの作成へ～

3学区とも地域ケア会議を始めて9年目になり，回を重ねるごとに会議の意義や活用について理解が深まるとともに，これまでの会議で課題は十分集約できてきました。

参加者からは，会議に参加している者だけの理解ではなく，地域へどのように還元していくかが課題との声が上がっており，会議の活用について，次の段階に進む時期と捉えています。

【松尾学区 地域ケア会議】

H22年度 松尾学区 第2回地域ケア会議

開催日時	平成 22 年 10月 5日 (火) 14時00分 ~ 16時00分
場 所	松 尾 自 治 会 館
参 加 者	民生児童委員 学区社協 老人福祉員 自治連合会 西京医師会 西京保健センター 西京区社協 その他(障がい者協会) 包括支援センター
テ ー マ	『松尾学区に住む高齢者世帯の問題点について、現状と将来を考える。』 2回目：1回目で出た意見を参考にして、学区内の問題点を知る・共有する。
方 法	グループワーク ・ 全体意見交換
意見交換の 内 容	☆松室地域、山田地域、鈴川地域の3グループに分かれ、それぞれの地域の特徴や、高齢者にとって良いところ不便なところを話し合う。 まとめた資料を参考にして、松尾学区にはどのような特徴があるのか意見交換をした。 <u>松室地域A班</u> ○10年度「松室ふれあい館」がこんなふうになってほしいね。 ・いっ行っても誰かがいて、若い人も子供も、男性も一緒に語り合ったり体操ができて皆が集える場所「ふれあい館」 ・互いに助けあって楽しく暮らしていける地域の「ふれあい館」 ・環境のとても良い地域性を生かした取り組みがえられる「ふれあい館」 <u>鈴川地域B班・D班</u> ○医療が進歩し、10年後平均寿命100才くらいになる。集い、笑い、筋トレをして元気で生きたい。 ○どんなに便利になっても、「向こう三軒両どなり」の関係は大切。 ○地域の中の「ふれあいの場」を作ることが重要。 <u>山田地域C班</u> ○独居でも認知症でも安心して住み続けられる地域にしたい。往診に来てもらえたり、必要なものを配達してもらえたりできたらいいな。 ○声掛けを大切に、理解しやすい情報を高齢者に届ける。 ○若い人達が優しくなるような町にしていきたい。 ○社協、民生とともに地域活動の輪をもっと広げて行く。
感 想	参加者が、松尾学区に住む高齢者世帯の問題点について、10年後の自分達の問題としてしっかり捉えて話しあうことができました。3グループそれぞれ特徴のある発表が出来たと思います。



H23年度 松尾学区 地域ケア会議

福祉マップ



松尾学区に住む高齢者世帯の問題点について、現状と将来を考える

- 1回目：自分たちの地域を知る
- 2回目：問題点を知る・共有する



高齢者が困った時の連絡先について「いざと言う時のために」

- 1回目：松尾の明日を考えるワークショップで意見が出た「緊急時の連絡先一覧」について進めるために、他地域の取り組みについて学ぶ。
- 2回目：緊急時対応カード（仮称）の松尾版作成について意見交換



福祉マップ 拡大図

松尾学区福祉マップ



緊急対応カードの作成 拡大図

【松陽学区 地域ケア会議】

H22年度 松陽学区 第 1 回地域ケア会議

開催日時	平成 22 年 7 月 21 日 (水) 14 時 00 分 ～ 15 時 30 分
場 所	西京区役所 中会議室
参 加 者	民生児童委員 学区社協 老人福祉員 自治連合会 ボランティア団体 (まつぽくくり) 西京医師会 西京区社協 包括支援センター
テ ー マ	事例を使って緊急時 (安否確認が取れない時・「しんどい」と聞いた時など) のように対応したらいのかを考える。普段から心掛けたいことについて意見交換する。
方 法	グループワーク ・ 全体意見交換
意見交換の内容	事例紹介の後、事例について意見交換を行った。 ・ 助け上手、助けられ上手になることがよい。 ・ 近所の人と話をする時、困っていることも伝えられるようにする。 ・ 「大丈夫？」という言葉かけの中から「困っているのは何か」を察知する。 ・ 助ける側が正確な情報を持つことが必要。非常時にどう対応したらよいか悩む。→119 番通報も必要。 ・ 救急搬送が必要な時など、緊急連絡先の把握が必要だが、個人情報のある壁がある。社協は老人の名簿の把握はできていない。 ・ 近所のつきあいー顔の見える関係が大切。まず顔を見てみよう。包括、民協、社協の連携が重要。 ・ 若いうちから近所の人と話をして顔見知りになっておくことが大切。 ・ 近所つきあいがあまりない。近所で、気軽に頼める関係が少なくなった。自分たちが高齢者になった時にどうしようかと思う。近所に声をかけられない人はどうするかが課題。 ・ 個配の利用や大型店へ買い物へ行くようになり、近所の人と出会う機会が減っている。 キーワード*普段からの近所付き合いが大切。 *正確な情報が大切。 *助け上手、助けられ上手
感想	事例を聞き、「あの人のことかな」と顔が浮かびました。近所で顔をみたらどこに住んでいる誰かということがわかる関係作りが大切だとあらためて感じました。 包括、老福、民生が初めて出会い、関わる時、本人もフレッシュャーを感じて思われます。信頼関係を築くことは難しいけれど、まずは近隣との関係作りからはじめることが大切だと思います。 私の近所にお住まいの方は、「親戚の家に行く」「白内障の手術をします」など連絡してくれます。まさに助け上手、助けられ上手の関係であると思います。



【松陽学区 地域ケア会議（平成23年度）】

松陽3愛運動「支えあい」「助け合い」「喜び合い」3つのあいは地域のつながり

高齢者を支援するには、高齢者が何に困っていて、どんな助けを必要としているか知ることが大切。また、元気なうちから知り合い・声を掛け合う事が必要。どのようにして関わったら良いのかについて、意見交換を行う。



【嵐山東学区 地域ケア会議】

H23年度 嵐山東学区 第1回地域ケア会議

開催日時	平成 23 年 7 月 26 日 (火) 14時00分 ～ 16 時00分
場 所	嵐 山 東 自 治 会 館
参 加 者	●民生児童委員 ●学区社協 ●老人福祉員 ●自治連合会 ●老人クラブ ●西京福祉事務所 ●西京区社協 ●包括支援センター
テ ー マ	『嵐山東学区に住む高齢者世帯の問題点について、現状と将来を考える。』 1 回目：自分たちの地域を知る
方 法	グループワークと発表
意見交換の内容	本年度の会議は「高齢者世帯の問題点について、現状と将来を考える」をテーマに第一回は「自分たちの地域を知ろう」と設定し、学区を4つのブロックに分けてグループワークを行い、それぞれの意見を出し合いました。嵐山東学区は、南北に長い地勢のため、居住する地域によって見方や要望も異なる事を発見。単に嵐山東学区だからみな同じ環境、同じ考えではない事を再認識しました。もちろん共通の課題は多くあります。 ＜誰もが感じていること＞ 1. 地域に高齢者（世帯）が増えた。 2. 買い物が不便で、お店も減った。 3. 交通が不便（特に区役所へ行く時）。 4. 高齢化が進むのは、長く居住している結果である。そのため地域の絆は比較的強い。 5. 自治会未加入者が結構多い。また、高齢者ばかりの地域が増えるのではない心配。
感想	高齢化も少子化もこうすれば、こうなるもの」と知りながら誰も手立てをせず、また、その時代の人間が求めた結果なのでしょう。経験したことが無い事態に対処するのは大変だが、たいへん楽しいとも思う。 これから自分、恐ろしい勢いで高齢者が増えます。その方達のパワーを活用するのが、対処のカギだと思う。ケア会議で複数の団体が同じテーマを考えるのは、コミュニケーションを図る上でも良い事です。

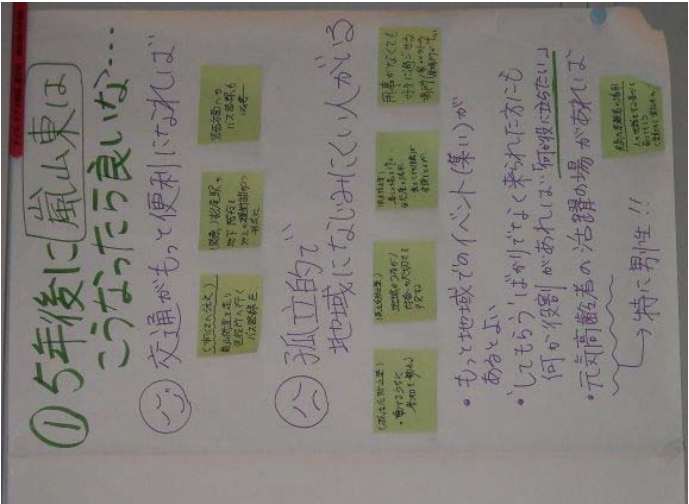
嵐山東学区地域ケア会議

嵐山東学区に住む高齢者世帯の問題点について、現状と将来を考える

1 回目：自分たちの地域を知る

2 回目：高齢者の安心につながる活動について考える

自分たちの地域を知る 拡大図



高齢者の安心につながる活動について 拡大図